

# 地域社会学会会報

No.237 2024.1.21

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies  
〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部  
松宮朝研究室内

TEL 0561-76-8706(直) FAX 0561-64-1107 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728  
E-mail [jarcs.office@gmail.com](mailto:jarcs.office@gmail.com) URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

## ◆…………… 〈 会報 237 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 地域社会学会第 49 回大会の自由報告募集について (4 ページ)
- 2) 能登半島地震における会費免除について (5 ページ)
- 3) 2023 年度会費納入をお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。

## 目 次

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告
5. 事務局からの報告
6. 事務局からのお知らせとお願い
7. 会員異動
8. 会員の研究成果情報
9. 理事会のご案内

## 2023 年度 第 4 回研究例会のご案内

日時 2024 年 2 月 11 日 (日) 13:30~16:30

会場 東京大学本郷キャンパス法文 1 号館 2 1 5 教室+Zoom でのハイブリッド方式  
※アクセス方法等は、開催 2 日前をめぐりに、会員メーリングリストで配信します。

### 【報告】

竹内陽介 (名古屋文理大学)

「移動経緯における U ターン者と転入者の比較分析—広島県大崎上島町を事例として」(仮)

地域社会学会 50 周年記念事業「地域社会学を振り返る」(4)

吉野英岐 (岩手県立大学) 「企画の趣旨説明」

小内透 (札幌国際大学) 「地域社会研究の歩みと到達点——学会と研究の軌跡を振り返って」

清水亮 (東京大学) 「コメント」

2月11日（日）開催の第4回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

## 1.会場にお越しのみなさま

●会場：東京大学本郷キャンパス法文1号館215教室

### 【会場へのアクセス】

最寄り駅からのアクセス [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map01\\_02.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map01_02.html)

本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）より徒歩8分

本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）より徒歩6分

湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩8分

東大前駅（地下鉄南北線）より徒歩1分

春日駅（地下鉄三田線）より徒歩10分



## 2. オンラインでの参加のみなさま

<事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。

ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。

◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。

◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。

◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。

◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

◆以下のいずれかの方法でお願いいたします。

①Zoom の「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。

②Zoom のチャットに、質問内容を書き込む

③Zoom のチャットに、質問がある旨を書き込む

<Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて>

◆オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらく Zoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoom での交流時間は設けないこととさせていただきます。

<当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

◇メールアドレス matumiya[アット]ews.aichi-pu.jp [アット]を@にしてください。

◇当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

◆当日の Zoom 操作に関すること以外は、研究委員長（清水洋行、hishimizu [アット] chiba-u.jp）までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

## 1. 理事会からの報告

### (1)2023 年度第 3 回理事会報告

2023 年度地域社会学会第 3 回理事会は、2023 年 12 月 9 日（土）の 10 時 30 分から 11 時 50 分まで、立命館大学（ハイブリッド）で開催されました。出席者は以下の通りです。

出席（17 名、敬称略）：浅野慎一、木田勇輔、小山弘美、齊藤綾美、佐藤洋子、清水洋行、高木竜輔、田中里美、玉野和志、船戸修一、前島訓子、町村敬志、松木孝文、松宮朝（記録）、丸山真央、望月美希、吉野英岐

理事会では、報告事項 7 件、審議事項 5 件が議論されました。

## ●2024 年度第 49 回大会

2024 年 5 月 11～12 日、滋賀県立大学で開催します。

その他の審議事項の詳細については、各委員会報告をご覧ください。

(松宮 朝)

## 2. 研究委員会からの報告

去る 12 月 9 日（土）に 2023 年度第 3 回研究例会が、立命館大学衣笠キャンパスにて対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。対面参加が 24 名で、オンライン参加者が最大時で 25 名でした。当日の報告の概要については『地域社会学会ジャーナル』第 14 号をご参照ください。当日の会場および機材等の手配・準備にあたり、中西典子会員と片平深雪会員に多大なご尽力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

この間、第 4 回と第 5 回の研究委員会を 11 月 21 日（火）、12 月 20 日（水）にオンラインにて開催し、主に大会シンポジウムのテーマ・登壇者について検討しました。大会シンポジウムでは、地方への若者の移動（移住・循環）が受け入れ先の地域（人々のつながりや経済、制度など）に何をもたらすか、をめぐり三名の会員に報告をしていただく予定です。各会の参加者は、いずれとも小山弘美、高木竜輔、田中里美、西野淑美、前島訓子、吉村真衣、清水洋行です（敬称略）。

今回の研究例会は 2 月 11 日（日・祝）です。開催方式は、これまでと同様のハイブリッド形式です。会場は、祐成保志会員にお世話いただき、東京大学本郷キャンパスをお借りできることとなりました。開催時間は、前回と同じ 13 時 30 分～16 時 30 分です。

前半の研究報告では、若者の地方における暮らしや地方への移動理由等について研究をされている竹内陽介会員に報告をお願いしました。事例をふまえた研究報告にもとづき、地方に向かう若者の視点を探っていきたくと考えています。後半は「地域社会学を振り返る」企画の時間となります。

みなさまのご参加をお待ちしています。

(清水 洋行)

## 地域社会学会第 49 回大会の予告、自由報告の募集

地域社会学会第 49 回大会が、2024 年 5 月 11 日（土）・12 日（日）の両日、滋賀県立大学にて開催されます。自由報告を希望される方は、以下の手順で自由報告への応募をお願いいたします。

### (1) 報告の題目と簡単な内容（100 字程度）の提出

2024 年 2 月末日必着で、メールにてお送りください。メールアドレスは下記のとおりです。メール受信後、行き違いを避けるために受理確認メールを返送します。受理確認メールが届かない場合は、メールその他の手段で下記連絡先に連絡してください。

### (2) 報告要旨（A4 版用紙で 40 字×40 行を 1 枚）の提出

2024 年 3 月 19 日（火）必着で、報告要旨を電子ファイル（Word）で作成し、メールに添付してお送りください。送付にあたり、PDF ファイルもあわせてお送りください。こちらが会報（プログラム・報告要旨集）の原稿となります。

〈提出先・連絡先〉

E-mail : hishimizu◆chiba-u.jp（◆を@にしてください）

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学人文科学研究院 清水洋行

電話 : 043-290-2292

【会費をまだ納入されていない会員の方へ】

自由報告を行う場合、2023 年度までの会費が納入されている必要があります。

### 【現在非会員で報告を希望される方へ】

自由報告は会員であることが必要です。現在非会員の方で自由報告を希望される方は、2月11日（日・祝）に開催される理事会で入会が承認される必要があります。該当する方は、下記のサイト（本学会のHP <https://jarcs.sakura.ne.jp/main/membership/index.html>）から、2月8日（木）までに入会申込をお願いいたします。

（清水 洋行）

### 3. 編集委員会からの報告

12月7日に第4回編集委員会をオンラインで開催し、年報第36集（2024年5月刊行予定）の編集の進捗状況について話し合いました。現在、自由投稿論文5本のリライトおよび査読中です。特集論文は、大会シンポジウム「流動化する社会における生活困難と地域社会」の登壇者に寄稿を依頼し、解題を含め計4本が掲載される予定です。また書評8本、書評リプライ3本が掲載される予定です。お忙しいなか、査読や執筆をお引き受けくださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

（船戸 修一）

### 4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告

去る1月21日に、社会学系コンソーシアム第16回評議員会がオンラインで開催されました。例年この評議員会と合わせて開催されていたシンポジウムについては、今年度から3月に開催されることになりました。そのため、これまで2月1日を年度の始まりとしていたものを、その年度の理事会が責任を持てるように、4月1日に変更することが決定されました。その他、決算と予算を含んだ会計報告がなされ、承認されました。同時に理事選挙が行われ、4月1日からの新理事が選出されましたが、これについてはまたご報告いたします。

シンポジウムの詳細については、以下の通りです。参加については、事前申込が必要ですので、社会学系コンソーシアムのウェブサイトから各自お申込をお願いします。

社会学系コンソーシアム第16回シンポジウム「なぜ、社会的孤立は問題なのか？」

日時：2024年3月9日（土）13:00～16:30

方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

総合司会：有末賢（亜細亜大学、日本都市社会学会）

報告者：

1. 石田光規（早稲田大学、日本社会学会）
2. 斎藤雅茂（日本福祉大学、日本社会福祉学会）
3. 阿部彩（東京都立大学、福祉社会学会）

討論者：

- ・ 稲葉陽二（元日本大学）
- ・ 野沢慎司（明治学院大学、日本家族社会学会）

◇参加申し込み

一般参加可能、参加費無料です。以下の URL にアクセスして必要事項を入力ください。先着1,000名まで参加可能です。こちらの登録フォームに記入いただいたメールアドレスに、後日、参加に必要な Zoom ウェビナーURL をご案内します。

<https://forms.gle/sQ5MrXzwKNsmPTpj8>

（玉野和志）

### 5. 事務局からの報告

#### (1) 会費納入状況

2023年12月7日時点の会員は総数383名（一般338名 院生26名 終身19名）で、2023年度まで納入済 221（57.7%）

5年滞納者は現時点では5名です。

## (2) 会報 236 号・ジャーナル No. 13 の発行

学会HP上で会報 236 号とジャーナル No.13 が発行されました。

(松宮 朝)

## 6. 事務局からのお願いとお知らせ

### (1) 2023 年度会費納入のお願い

2023 年度の会費納入をよろしくお願ひします。

納入の状況について、<https://jarcs.sakura.ne.jp/information.html> よりご確認お願ひ申し上げます。

上述の通り、今会計年度からは SMOOSY による納入をお願ひしております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### (2) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2022 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願ひします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

### (3) 能登半島地震における会費免除について

2024 年 1 月 1 日、令和 6 年能登半島地震が発生しました。震災の犠牲となった方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

地域社会学会理事会では、能登半島地震において本人あるいは家族が被災された会員に対して、2023 年度／2024 年度会費について免除することを決定いたしました。

○対象会員:令和 6 年能登半島地震において本人あるいは家族が被災され、経済的損失を被ったり会費の支払いが困難になった会員

○免除の範囲:2023 年度／2024 年度分の年会費全額

免除は自己申告となります。申請される方は、お手数ですが、事務局まで、「氏名、所属、申請理由」について、メールにてご連絡お願ひ申し上げます。

なお 2023 年度会費納入者については、返還手続きを行うことといたします。

(松宮 朝)

## 7. 会員異動（敬称略）

< 新入会員 >

馬場 健彦（集団力学研究所）

中川 理季（公益財団法人世界人権問題研究センター）

(以上、2023 年 12 月 9 日理事会で承認)

## 8. 会員の研究成果情報(2022 年～2023 年)

### ●2023 年 [著作]

野邊政雄『メルボルンの女性のライフコース——戦後の繁栄の時代に結婚・出産をした女性』東信堂、2023 年 12 月

徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編『地方発 多文化共生のしくみづくり』晃洋書房、2023 年

### ●2022 年 [論文]

菅沼若菜 「自治体の空き家バンクと民間企業の連携可能性——神奈川県三浦市の空き家バンク

と「家いちば」の事例から」『人文学報』518(1)号、65-86、2022年3月  
菅沼若菜 「変容する地域における「場所のアイデンティティ」——横浜綱島を事例に」『人文学報』518(1)号、87-106、2022年3月

●2023年〔論文〕

野邊政雄（単著）「中山間地域に住む高齢者の暮らし——岡山県高梁市宇治町の事例（その1）——」  
『安田学術研究論集』52号、23-30頁、2023年9月

菅沼若菜 「コロナ禍におけるオープンスペースの活用——横浜綱島地区の公園・イベントに着目して」『人文学報』519(1)号、95-114、2023年3月

菅沼若菜 「コロナは都市の暮らしにどのような影響を与えたか——デジタル化とまちづくりに着目して」『日本都市社会学会年報』41号、54-69、2023年9月

徳田剛「日本の地方部における外国人受け入れの現状と課題」『都市問題』114号第2巻、4-13、2023年

二階堂裕子「地方圏における産業の持続可能性の確保に向けた外国人技能実習生の受け入れ」同上、28-35、2023年

## 9. 理事会のご案内

第4回理事会

日時 2月11日（日）10:30～12:30

東京大学本郷キャンパス＋ハイブリッド